

第3次京田辺市環境基本計画の策定に係る パブリックコメント結果

- (1) 案件名 第3次京田辺市環境基本計画の策定に係るパブリックコメント
- (2) 募集期間 令和6年12月26日（木）から令和7年1月24日（金）まで
- (3) 意見提出者 2名
- (4) 意見の数 23件
- (5) 意見への対応内訳

対応区分	件数
計画に追加又は修正するもの（追加・修正）	0件
計画に趣旨を記載済みのもの（趣旨記載）	0件
計画の実施段階で参考とするもの（参考）	1件
その他	22件
合計	23件

整理番号	ご意見の概要	対応	ご意見に対する考え方
1	P6 図表 1-1 計画の位置づけ 左側の大きな四角（内に4つ）とその下の四角（内に5つ）はどういう括りなのか記載した方がわかりやすいのでは。	その他	文章中の表記や言い回しについては、ご意見を参考にさせていただきます。
2	P28 「きょうたなべ環境市民パートナーシップと緑のカーテンの作り方説明とゴーヤ等の苗を市民に無料で配付（5月）しています。」との記載は要するに「説明会を開催して、苗を配布した」ということだと思うのですが、もう少しあかりやすい表現にした方が良いと感じました。	その他	
3	P32 京田辺エコパークかんなび 「3R 推進活動に関する各種研修やイベント企画にも積極的に取り組んでいます。」とありますが、事業活動をみていくと頻繁にイベントをされている様子がわからないので（HP を長年更新されていないだけかもしれません）、次の 3) 公益社団法人薪甘南備山保存会と同じく「様々な事業に取り組んでいます。」と記載した方が良いのではないでしょうか。	その他	
4	P44 「太陽光発電の整備に関しては、」は「太陽光発電の導入に関しては、」、もしくは「太陽光発電設備に関しては、」と記載した方が良いのではないかでしょうか。	その他	
5	P44 市民、事業者、学生 → 市民、学生、事業者の並びの方が他と整合性が取れるのでは。P84 の 1 行目も同様	その他	

6	P48 「関心を持ち」→「関心をもち」 ではないでしょうか。すぐ上の記載では「特徴をもつ」となっています。	その他	
7	P59 化石燃料車が EV などの電動車に転換 → 化石燃料車から EV などの電動車への転換 の方が良いのではないでしょうか。	その他	
8	P59 宅配便の再配達の削減 が市の取組にあります が、市で再配達がなくなるようにするというよりは 市民等への情報発信ということでしょうか？	その他	宅配便の多様な受け取り方法を市民へ情報発信することが考えられますが、他にも宅配ボックスの普及促進や市役所を含めた事業所での受け取り方法などの拡大により市が宅配便の再配達を削減する手法も考えられます。
9	P60 イニシャル負担 →初期投資、またはイニシャルコストの方が良いのではないでしょうか。	その他	文章中の表記や言い回しについては、ご意見を参考にさせていただきます。
10	P60 市民、事業者への～中略～ 情報発信 について、市や事業者・団体からの情報発信というのはわかりますが、市民から情報発信するということでしょうか？市民は重要性を知り、選択するということでしたらこの表記では混乱を招くと感じました。 他の項目に合わせて「情報提供・把握」にした方が良いのではないでしょうか。	その他	
11	P61 クールスポット→クールシェアスポットの方が良いのではないでしょうか。	その他	
12	P62 再エネ、再生可能エネルギー 表記	その他	
13	P63 食品ロス削減ハンドブック等により周知啓発 → 食品ロス削減ハンドブック等による周知啓発 3きり運動 → 3きり運動 (空白削除)	その他	

	P64●各主体の取組 事業者の取組 食事を提供する事業者は、食べ残しがないよう、事前に食べられる量を尋ねて対応できるようにしましょう。 とありますが、毎回尋ねるのは店・客側ともに負担が大きいと思います。「食べきれない可能性がある場合は、お声がけください」というのをどこかに記載した方がやりやすいのではないかでしょうか。	その他	
14	P64●市の取組 分別排出に関する啓発・指導の推進 検査という文言はないですが、事業者の指導は検査に基づくものということでしょうか？	その他	必要に応じて甘南備園に搬入されたごみ袋を開披する展開検査を実施し、その結果により必要があれば指導することとなります。
15	P64 紙資源のリサイクルの推進 古紙共同回収事業の情報収集、事業系古紙回収マニュアルの作成の検討で事業系の紙資源リサイクルを促進となるのでしょうか。	その他	紙資源リサイクルを促進するため、まずは、古紙共同回収事業の情報収集、事業系古紙回収マニュアルの作成の検討が必要と考えており、文章中の表記や言い回しについては、ご意見を参考にさせていただきます。
16	P64 多様なリサイクル活動の促進 生ごみのバイオマス利用については情報収集のみで発信はないのでしょうか？	その他	国内外のバイオマスによるリサイクルの情報収集に努め、必要に応じて、本市でのバイオマス導入を検討するための取組と考えており、収集した事例の発信は予定しておりません。
17	P66 市民の取組 分別排出ルール → 分別ルール他ページと合わせた方が良いのではないかでしょうか。	その他	文章中の表記や言い回しについては、ご意見を参考にさせていただきます。
18	P66 事業者の取組 許可業者 → 一般廃棄物収集運搬業許可業者？ 自ら持ち込み可能なことと、産業廃棄物の記載もないので不正確と感じました。詳細に記載するかもしくは、「事業系ごみは適正排出に努めましょう。」としても良いのではないかでしょうか。	その他	

	P8 6. 各主体の役割 「これまでの延長線上ではない、新たな行動・・が求められています。」 極めて適切な指摘です。 (1) 市民及び学生の役割 市民と学生では立場は違います。これは明確にしておいたほうが良いと思います。それぞれの中でもいろいろな立場があり、別章では担い手の実態の認識が必要となると思います。	その他	本市は、同志社大学が立地し、本市に住民票が存在しない、多くの大学生が通学・生活する「まち」としての特徴から、「学生」を市民と同じ位置づけとしているものです。
20	P11 (3) 人口・世帯数 松井山手や同志社山手などには既存住民とは異なるライフスタイル層が流入しています。また既存自治会でも運営の変化が求められています。ライフスタイルの変化に言及しておくべきだと思います。	その他	当該頁は、統計データをもとに人口と世帯数から、一般的な変化や特徴を分析しているものです。地域における住民の年齢層等の違いはあると考えますが、ライフスタイルやその変化につきましては、統計データにないことから、分析することができません。
21	P50 環境指標 5 行動とつながりを育む 三つの指標が掲げられていますが いずれも目標を達成するための手段であり、これらの結果での実践参加者の増加等が指標になるべきではないでしょうか。	その他	当該目標は、環境への関心の少ない者をイベント等で掘り起こし、環境に関心のある者や組織と「つながる」ことで相乗的に「行動を育む」ことを目的としており、機会の創出を指標に考えているものです。
22	P79 重点アクションチームのロードマップ P86 計画の進行管理で PDCA での点検評価が盛り込まれています。ロードマップは、実態に即した特に担い手に十分配慮したものであるべきで、これを違えると、報告もそれに対する点検評価も形骸化していきます 1) コンポスト（生ごみの資源化）の推進についてこれまでの延長線上ではないやり方の活動を行い一定の成果を上げてきたチームの一員としては、現状	参考	これまで、「きょうたなべ環境市民パートナーシップ」が当該計画の実行組織として位置づけられ活動を進めていましたが、今回の計画からは、アクションを中心としたアクションチームをつくることで、これまでにない活動をこれから推進していくものです。 ロードマップは、目標達成に向けた戦略や課題解決などをまとめた地図として考えられ、重点アクションチームは、当該計画の目標を達成するための一つの手段です。

の案は実態に即していないと思います。別紙にて「ロードマップ変更案」を提出します。		また、3つのチームには、それぞれ<チームのねらい>として目標が定められ、3つの段階が設定されており、チームの意思を尊重すると共に、ロードマップの範囲において市が支援していくものとなります。 なお、チームのお考えに関するご意見につきましては、これから具体的な取組を展開していく際の参考とさせていただきます。
--	--	---

問い合わせ先 環境課

電 話 0774-64-1366

E メール kankyo@city.kyotanabe.lg.jp

別紙

(3) 重点アクションチームのロードマップ

1) コンポスト（生ごみの削減と資源化）の推進

<チームの狙い>

- ・これまでの市の施策や広報により、すでに実践中や、すぐ実践したい人が存在する。これらの人を発掘し、共に楽みなながら推進する。
- ・生ゴミの削減と自然循環を目指し、地産地消につなげ、ゴミ及びCO₂の削減につなげていく。
- ・京田辺市における市民のゴミ削減策、普及の機会づくりなどについて実践していく

STEP① 市としては、ちーむ・コンポストの活動を発掘し見守ってきた。

チームとしては、活動を広げ、関わる人を増やす段階

【活動を始める】

- 活動に参加したい人を募り、参加者の実践状況や、目標などを共有した。
- 活動の継続のため、名称、目的、意思共有手段、発信手段（活動報告）、例会日程などを決めた。生ごみ削減量を記録してゆく。

【活動を深める、広げる】

- 市主催のセミナーや環境フェスタ（イベント）参加を決めた。
- 段ボールコンポストについて、実践を通じて知見を深め、希望者に提供してきた。
- 各メンバーのコンポストの実践経験を、展示紹介出来るようにしてきた。
- イベント参加者に、チーム参加をお薦めしてきた。
- 新たな参加者の実践状況や、目標などを共有していく。

【社会とつながる】

- メンバーの多くは、それぞれコンポスト活動の展開について意見や構想を持っている
- メンバーが外部で説得力ある意見発表が行えるよう、特に実践とその発信についてサポートする。

STEP② 環境基本計画や他の施策を理解し、協調しての活動を強化する段階

【活動の原点の確認】

- コンポストいろいろ、人もいろいろ。メンバーそれぞれの実践を楽しみ、共有し発信することを楽しみ、仲間や実践場所が増えることを楽しむ。
- 市民グループとして、市とはフラットな関係かつ自立した活動を行う。
- メンバーのそれぞれのコンポスト活動に協力し支援する。

【活動をさらに深める、広げる】

- 年間計画を作り、市との協力事業を盛り込む。
緑のカーテン開催時、たなフェス開催時、地域への出前セミナー

EM ボカシ作成会

- 堆肥循環 チームとしての実践。それを踏まえた展開アプローチ。
- 教育関係 これまでの事例調査。活動紹介。協力要請を想定しての体制整備。
- 新たな派生グループ誕生と継続へのバックアップ。
- 組織体制 登録団体への移行検討

STEP③ 継続性かつ持続性の観点から活動を見直す段階